

日鉄物産システム建築

従来比 25% の工期短縮 物流拠点整備の課題を解決

活用を一とアピー
ルするのは日鉄物
産システム建築
(本社=東京)。

同社は工場
倉庫、店舗の建築
において「低コスト
ト」「短工期」「高
い耐震性」「多彩
な外観デザイン」
「環境への配慮」
「安心のメンテナ
ンス」などの建築
主のさまざまなニ
ーズに対応できる
システム建築を自
社開発している
「システム建築の
専業メーカー」。
平屋専用規格型
「ティオ」、規格進化
「ネオ」、自由設計
「トレオ」の3商品
社ピッチを拡大して
アウトの自由度が増



鶴田 貴也 取締役

した「ネオ・グリーン」を新たに加え、昨今の様化する建築主のニーズに、同社は業界随一の富な商品バリエーションで応えている。さらに、「基礎」「鉄骨」「屋根」「外装」の各システムのバリエーションが豊富で、敷地条件や内レイアウトに対する要に対し、適応範囲が広いが大きな強み。また、現在の資材価格の高騰、部材不足、納期の長期化で工程の見通しを立てる中、短工期で確実

シスコアムで、2年の建設業問題「人手不足」「現場の高齢化」「過重労働」「資材高騰」などの建築現場における課題解決を担っている。

特に「人手不足」を解決する一つの有効な手段としてシステム建築は認識されつがあり、近年引合が増加、同社の2022年上期の受注額は対前年度40%増の200億円と過去最高額を記録。事業のきっかけは、旧住友金属工業（現日本製鉄）で、建設業界の将来

「システム建築」を設立後19年に「日鉄物産システム建築」に社名変更し現在に至っている。

「事業開始当初からしばらくの間は、商品する「システム建築」の認知度が極めて低かった。建築関係のソフトアを販売しているなどと誤解をされるが多くあった」と話すは鶴田貴也取締役。

また商品に関しては「小規模建築に向うるアレハブ工法と同様に思われるケー

スも主 ても主 てい ジだ もう すの こと 云社 こと 低く ウエ で構成され により徐々に成 め、全国150 で構成されてい 物産システム いう現在の販売 ノーク構築につな 会社設立から 売上高が約10 た。直近の売上 21年3月期2 (247棟 48万 平方メー 棟、49万平方メー 322億円(一

り強い活動の成果が出始
め、23年（217棟）では、冷蔵・冷凍地」といった狙い
策としての新規需要があるという
古い建物や搬入動線が非効率な倉庫
内蔵で働き労働環境を改善
めの高断熱仕様の建設など、さまざ
要に対応できるシ
建築のメリットが
したことでも需要
に伸びている。
最近のトピック
は、冷蔵・冷凍

の倉庫デポ立設され搬出・搬入の建庫で人々守るた工場のまな需システムマッチが急速スとし倉庫の



An aerial photograph showing the large, modern terminal building of Kansai International Airport. The building has a distinctive stepped, angular design with a light-colored roof. It is surrounded by a dark, paved area and is situated near a highway and other airport infrastructure.

名古屋貨物運輸倉庫の危険物倉庫4棟と一般倉庫1棟（愛知県春日井市、元請施工は日東建設）

納期を約束できる点も大きなメリット。建築主の多様なニーズに適応する商品のラインナップと独自の基礎としたシステム建築商の開発・販売を開始したこと。2007年に旧友金属工業から分離独立し、システム建築専業の「住金シ

年2月39万で、一ヶ所が高まっていることは、物流大手も投資を加速させている。車のEVと「冷凍・冷藏・定温」といった保管温度管理を厳格化した倉庫や危険物倉庫といった機能別の需しが高まり、問い合わせが相次いでいる。この分野の営業を強化していく。「物販」の中継基地の建設。

シフトに伴うリチウムイオン電池の保管需要が増加するとともに、半導体製造工程に必要な化学品、高圧ガスなどの保管需要も喚起。規模も10

建築には適した内容と説明する。直近5年間で20件、39棟の実績がある。人手不足がますます深刻化する中で、システム建築は建物の部材を工場で製作することでコストダウンが図れ、現地での